

火焰型土器のPR活動及び火焰型土器の2020年東京オリンピック・パラリンピックの聖火台モデル採用に向けた支援活動

【火焰型土器、2020東京オリンピック・パラリンピック、聖火台】

活動の背景

- ◆信濃川流域から約5000年前の火焰型土器が多数出土し、国宝（十日町市の笹山遺跡）、国指定重要文化財（長岡市の馬高遺跡・津南町の堂平遺跡）に指定され、日本遺産に指定されている。
- ◆2013年9月に2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催が決まった直後から、新潟県内で国宝の火焰型土器をオリンピック・パラリンピックの聖火台のモデルにという声が上がリ、信濃川流域の市町村を中心にその実現に向けて国の関連機関への要望活動が始まった。

活動の目的

- ◆日本の優れた歴史文化遺産である火焰型土器を積極的にPRしたい。
- ◆火焰型土器の2020年東京オリンピック・パラリンピックの聖火台モデル採用に向けた支援活動を行い、東京オリンピック・パラリンピックにおいて火焰型土器と縄文文化が世界に向けて発信できるようにしたい。

課題認識

- ◆人々に消費されやすいクッキーセットのパッケージを通して、縄文少年と少女「おうくん」「かえんちゃん」という人物を創作し、火焰型土器を物語化し、PRに努めた。
- ◆続いて、A4サイズ両面の「信濃川流域の火焰型土器ガイドマップ」を制作し、物語性とビジュアルな手法で火焰型土器の良さと東京オリンピック・パラリンピック聖火台採用の必要性を訴えた。

活動内容（1）

- ◆「縄文クッキー-おうくんとかえんちゃん」の商品企画・商品化の実現
- ◆2014年十日町ビジネスコンテストへの参加がきっかけとなり、商品企画
- ◆（株）ブルボン・（株）最上屋・十日町社会福祉会なごみの家の協力を得て、2015年5月に商品化を実現
- ◆新潟県内と東京で販売し、商品を通し、火焰型土器をPR

企画商品

～縄文クッキー-おうくんとかえんちゃん～

- 製造
 - クッキー→（株）ブルボン・最上屋
 - ハーブティー→十日町の宮沢家
- 商品の箱詰め作業・管理
 - 十日町福祉会なごみの家
- 販売
 - 道の駅クロスステン（十日町市）など

商品のパッケージと中味



商品の特徴と意義

- ◆火焰型クッキーの復活
- ◆火焰型土器をPR
- ◆地域連携 win-win効果期待
- ◆社会福祉事業の支援

活動内容（2-1）

- ◆「信濃川流域火焰型土器ガイドマップ」の制作
- ◆2019年春に私費で「信濃川流域火焰型土器ガイドマップ」3000部を制作し、東京オリンピック・パラリンピック関連機関、政府各部門などに発送し、新潟県内の観光施設・縄文関連施設に配布し、火焰型土器の2020年東京オリンピック・パラリンピックの聖火台モデル採用に向けた支援活動を実施

活動内容（2-2）

- ◆「信濃川流域火焰型土器ガイドマップ」の制作
- ◆2019年6月に公益財団法人内田エネルギー科学振興財団より助成を得て「信濃川流域火焰型土器ガイドマップ」を10000部増刷し、新潟県内外で火焰型土器のPR活動を実施中

信濃川流域火焰型土器ガイドマップ（表と裏）



信濃川流域火焰型土器ガイドマップ（中側）



今後の課題

- ①「信濃川流域火焰型土器ガイドマップ」の新潟県内外の観光施設・縄文関連施設への配布
- ②信濃川流域の火焰型土器の観光資源としての活用方法の模索（信濃川流域火焰型土器巡りツアーの実現に向けた環境作りなど）